

## 令和元年度第1回自立支援協議会こども部会 議事要旨

1. 開催日時 令和元年6月3日(月)午後1時30分～3時30分

2. 開催場所 健康センター第1会議室

3. 出席者(委員) \*団体名のみ記載

(特非)千楽、浦安手をつなぐ親の会、浦安市自閉症協会、千葉発達障害児・者親の会「コスモ」浦安グループ、(一社)こども未来共生会、(特非)かぶあ、(福)パーソナル・アシスタンスとも、(特非)ワーカーズコープ、(特非)発達わんぱく会、(福)なゆた、(特非)アリスのうさぎ、(株)チェントアンニ、スマートキッズ(株)、千葉県立市川特別支援学校、千葉県立船橋夏見特別支援学校、浦安市立小学校長会、浦安市立中学校長会、こども課、浦安市子育てケアマネジャー、こども発達センター(事務局)福祉部次長、障がい事業課、障がい福祉課

### 4. 議事次第

1. 開会

2. 議題

(1) 令和元年度こども部会の運営と議題について

(a) 令和元年度・2年度の自立支援協議会の組織と運用について

(b) 平成30年度のこども部会のふりかえり

(2) 青少年サポート事業 平成30年度の実績報告と平成31年度事業計画

3. 閉会

4. 配布資料

議題(1)(a)資料1 令和元年度・2年度浦安市自立支援協議会の組織と運用

議題(1)(b)資料2 平成30年度のこども部会のふりかえり

議題(2)資料1 平成30年度(2018年度)青少年サポート事業 青少年発達サポートセンター「そらいろルーム」年度実績報告書

議題(2)資料2 平成31年度(2019年度)青少年サポート事業 青少年発達サポートセンター「そらいろルーム」事業計画

### 5. 議事概要

議事に先立ち、自己紹介を行った。

- ・(特非)千楽(サブリーダー):千楽では、日中一時支援事業、放課後等デイサービス事業、生活介護事業、就労継続支援B型事業、生活訓練・自立訓練事業、そして相談支援事業の6事業を行っている。前回に引き続きサブリーダーになったので、有意義な議論をしていけるようにしたい。
- ・浦安手をつなぐ親の会:1977年に、知的障がいを持つ子の親の集まりとして発足し、現在は70名弱の会員数である。会員の中でも、社会福祉士や介護士の資格を取るような人たちが増え

て、勢いづいていると感じている。

- ・浦安市自閉症協会：毎年部会に各委員を出しているが、部会で相談しても解決に時間がかかるということが悩み。委員の任期が変わるたびに同じ内容を繰り返し協議しており、前に進んでいる気がしない。
- ・千葉発達障害児・者親の会「コスモ」浦安グループ：発達障がいを持った子どもの親の会で、子どもたちが自信を持って生きていけるような環境が整うことを願って、活動している。合理的配慮の成功事例があったら、ほかの子どもにも生かせる貴重な情報だと思うので、各学校同士や保護者と共有していけたらよいと思う。
- ・(一社) こども未来共生会：千葉県内で3カ所、5事業を運営しており、浦安市では、まちづくり活動プラザの1階で青少年発達サポートセンターそらいろルームを運営している。
- ・(特非) かぶあ：放課後等デイサービスと児童発達、生活介護と相談支援、日中一時と移動支援を行っている。各事業所や特別支援学校との連携は割とスムーズだが、市内の小中学校とは時間的にも困難であることを課題だと思っている。
- ・(福) パーソナル・アシスタンスとも：日中一時支援、放課後等デイサービス、身障児児童発達支援、相談支援、身障センター、地域活動センターなどを運営している。こども部門では、専門講師による療育事業や言語の個別支援プログラムと集団プログラムを行っている。個人的には部会は初参加。みなさんと情報共有をしたい。
- ・(特非) ワーカーズコープ：浦安では学童、学習支援、放課後等デイサービスはっぴーデイあんを運営している。担当者会議で支援の方向性を協議し、それぞれの機関が同じ方向性で支援をしたらプラスになると思う。各機関と協力していきたいと考えて部会に参加した。
- ・(特非) 発達わんぱく会：対象は1歳半から就学前のお子さん。浦安に2校と江戸川に2校開設している。支援の勉強のために参加した。
- ・(福) なゆた：生活介護事業、就労B、放課後デイ、日中一時支援、短期入所などの事業を主に行っている。個人的には、小学生に対する福祉教育が大事だと考えている。
- ・(特非) アリスのうさぎ：日中一時支援事業以外は制度外で個別の学習支援や、18歳以上の方のひとり暮らしを目指した自立支援の事業、ヘルパー事業を行っており、制度では埋まらない部分の事業を主に行っている。母親からの相談も多く、千葉県障害児等療育支援事業も受託した。障がいのある人もない人も、一緒に学び、生活していけるような地域社会をつくっていききたいと考えている。
- ・(株) チェントアンニ：放課後等デイサービスと日中一時支援を行っている。保護者と支援計画等をつくっている中で、教育機関とさらに連携を図れたらと感じている。現状、支援業者と学校と恐らく別々の支援計画をつくっていると思うが、同じ方向性を持って療育を行っていききたいという思いで、部会に参加した。
- ・スマートキッズ(株)：千葉、東京、神奈川、埼玉、大阪で放課後等デイサービスを行っている。理念は、教育の力で生徒たちの持つ可能性を最大限支援すること。
- ・千葉県立市川特別支援学校：昨年度末の部会で、途中で終わってしまったようなところがあったので、もう少し支援学校の地域での役割について発信できたらと思い参加した。学校内だけ

ではなく、特別支援教育コーディネーターが学外に出て卒業生を支援するなど、支援を必要としている人たちに対し支援を行っている。

- ・千葉県立船橋夏見特別支援学校：肢体不自由の特別支援学校である。部会の協議の中から特別支援学校のさらなる役割を見つけ、校内でも検討したい。同時に本校の教育で培ったノウハウを情報共有できればと考えている。
- ・浦安市立小学校長会：こども部会では様々な団体・事業者が出席しているので、いろいろと参考としたい。
- ・浦安市立中学校長会：初めて部会に参加する。いろいろ教えてもらえればと思う。
- ・こども課：こども部会に参加することで、情報共有をし、課題の発見と解決ができれば良いと思う。
- ・浦安市子育てケアマネジャー：子育てケアマネジャーは、現在 14 名。相談室には発達障がいや、難病のお子さんのことで苦しい胸のうちを聞いてほしいという相談が多くなってきている。部会に参加して支援の参考にしたいと考えている。
- ・こども発達センター：センターでは、心身の発達に遅れや心配のあるお子さんと保護者の方に対して、児童発達支援を行っており、こども部会でも情報共有をしていきたいと思っている。

(1) 令和元年度・令和 2 年度浦安市自立支援協議会について

(a) 令和元年度・2 年度の自立支援協議会の組織と運用について

■説明（事務局）

新しい任期が始まるにあたり、令和元年度・令和 2 年度浦安市自立支援協議会について、前期までとの運用の違いを中心に説明を行った。

■主な意見

特になし

(1) 令和元年度・令和 2 年度浦安市自立支援協議会について

(b) 平成 30 年度のこども部会のふりかえり

■説明（事務局）

こども部会の運用と協議の事前情報として、平成 30 年度のこども部会の活動内容について説明を行った。

■主な意見（サブリーダー：サ、委員：委、事務局：事）

委：昨年度、作業部会にかけた時間と参加人数を教えてください。

事：作業部会は 2 回行った。30 分から 40 分の部会の後、場面転換をして作業部会を 1 時間から 1 時間半弱。参加人数は、20 人ほどの委員の中で毎回数名の欠席者がいたので 17、8 名位。3-4 グループに分けてグループワークをした。

委：後の時間を延ばしたということではなく、部会内 2 時間で作業部会も行ったということか。

事：そのとおりである。

委：昨年度まで詰めてきた課題や、作られてきたものがあるのであれば、今年度の新任の委員にもその部分を早目に共有し、進めていくことが大事。具体的な問題もたくさんあるので、そういうことを取り上げていくのは有効だと思う。

委：何年か子ども部会に出席しているが、毎年振り出しに戻って同じような話をして、同じような親からの困り感、要望、お願いをしているような状況になっている。協議会本会と部会で連動した後に、行政がどう考えていくか、事業所が拾ったニーズをどう形にしていくのかが大切だと思う。課題解決には、根拠が必要なので親の会としては仕方なく事例を挙げないといけないという立場にあるので、自由な会議ができるように配慮していただきたい。

委：数年前に子ども部会で発言した内容で、答えが出ていない件がある。市役所1階の託児室で、障がいを利用を断られた方がいた。合理的配慮の面からどうか。例えば、予約等によって、サービス事業所のスタッフが来てくれるなど、何らかの解決法を早く考えていただきたい。託児室の現在の利用件数などは把握しているのか。

委：今手元に託児室の利用件数の資料がないため、次回までに整理させていただきたい。利用については年齢以外に制限は設けていない。話のあった事例についても確認する。

委：託児室をつくるに当たってユニバーサル会議にも参加したが、障がいのある児童の利用については利用規約に入らない。障がい児の利用について想定はしているのか。

委：利用についての制限は年齢のみである。

委：事業所としても協力できることは協力したい。

サ：地域の連携の中で、受け付けられる場所の整理や資源の確認、課題解決のスピード感も大事。

事：今あげられた事例のように、浦安市の中で起こっている具体的な事例、しかも行政に関わることであるということも踏まえて、次回以降の子ども部会で取り上げる議題としてはどうか。

委：課題を早急に考えていくには発言し続けていくしかない。今年度からスムーズに議論がなされ、何らかの解決につながっていくような会議になればいいと思う。

委：困り感を抱えたときは、事前に相当な時間をかけて調べて、それでも解決しないから相談窓口に行くもの。でも窓口では話し合いにとどまり、解決の糸口が見えないままであきらめてしまう。課題提起したことを、一旦引き取って回答がないということは、相談者に不安を抱かせる。引き取ったことは次回には回答が欲しい。

問題解決に時間がかかり過ぎるということは、課題だと思う。本部会は経験や知識やスキルが豊富な方が集まっている会議で、この2年間のうちに何なりかの道筋というか、対処法などをつくり上げていただけるとありがたい。

サ：意見があったとおり、前年度の内容を引き継ぎ、作業部会の中で個々のケースに焦点を当てて協議することで、さらに現実に起こっている地域課題が見えてくると思う。出された意見を踏まえて、リーダー、サブリーダー、事務局で整理する。

## (2) 青少年サポート事業 平成30年度の実績報告と平成31年度事業計画

### ■説明（青少年発達サポートセンター「そらいろルーム」）

資料に沿って、平成30年度の実績報告と平成31年度事業計画について説明した。

■主な意見（会長：会、委員：委、事務局：事）

委：18歳から25歳の方の利用数はどれくらいか。

委：全体の2割ぐらい。

委：昨年の委員の方からの申し送りで18歳以上につなげていく必要性があるとあった。青少年サポート事業は25歳までを対象としているが、どう考えるか。

委：学齢期から合理的配慮が行われており、成人になってもそれが引き継がれていくことが一番のポイント。予防的、あるいは社会でうまく理解してもらうために、できるだけ学齢期から見立てをし、早期に支援環境を作っていくことを目標にしている。

委：高校生以上のSST、グループ療育を行う予定はあるか。以前はないと回答された。

委：ニーズがあれば検討させていただく。

委：昨年度の来所者数が3,744もある中で、学校訪問は9件。これをどう解釈するか。学校と相談しないで済んでいるのか、それとも学校との連携が難しいのか。

委：訪問は9件だが、電話では相当数話している。一定期間のモニタリング後、療育の報告書を保護者に渡し、それを学校や先生との話し合いに利用してもらっている。電話と報告書を通した本人理解のお願いということを通していくと、相当な件数になると思う。

○そのほか

- ・時間の会議日程について事務局から連絡。

注) 青少年サポート事業：発達が気になる学齢期から概ね25歳までの方やその家族が、地域で適切な相談や療育を受けられる支援体制の充実を図るための浦安市の独自事業。療育手帳や精神障害者保健福祉手帳の有無に関わらず、利用が可能。